

News Release



令和4年3月1日

各報道機関文教担当記者 殿

COVID-19 流行後の消費の落ち込みに伴う石川県内への経済損失額は 3,024 億円 金沢大学寒河江研究グループが推計

金沢大学人間社会研究域経済学経営学系教授 寒河江雅彦と同大学院人間社会環境研究科博士後期課程 原田魁成の研究グループは COVID-19 流行に伴う消費の減少が及ぼす石川県内への経済的な影響を推計しました。この分析では家計の収入・支出、貯蓄・負債などを毎月調査する基幹統計である「家計調査」を用いて、COVID-19 流行期の 2020 年、2021 年の消費支出額と同流行前の 2019 年の消費支出額を比べることで石川県内での消費の落ち込みを捉えました。

図 1 より、北陸総世帯の 1 人当たり月額消費支出額は 2019 年が 108,603 円、2020 年が 100,934 円、2021 年が 106,360 円であり、2019 年から 2020 年にかけて総世帯の消費が月平均▲7,669 円減少していました。項目別では「住居」、「交通・通信」、「教育」、「教養娯楽」等、10 項目中 7 項目で消費が減少しました。他方、2020 年から 2021 年にかけて月平均 5,426 円消費が増加していました。項目別では「住居」、「家具・家事用品」、「交通・通信」等、10 項目中 7 項目で消費が増加しました。COVID-19 の影響により、「家具・家事用品」や「その他の消費支出」は消費が年々増加傾向、「教育」や「教養娯楽」は消費が年々減少傾向にあります。

円	2019年	2020年	2021年	消費単価の変化	
				2019⇒2020	2020⇒2021
食料	26,428	27,308(3.3%)	27,012(▲1.1%)	↑	↓
住居	6,981	5,331(▲23.6%)	7,535(41.3%)	↓	↑
光熱・水道	9,530	8,960(▲6.0%)	9,180(2.5%)	↓	↑
家具・家事用品	3,492	4,071(16.6%)	4,808(18.1%)	↑	↑
被服及び履物	3,508	3,100(▲11.6%)	3,199(3.2%)	↓	↑
保健医療	4,483	4,302(▲4.0%)	4,578(6.4%)	↓	↑
交通・通信	19,412	15,056(▲22.4%)	17,305(14.9%)	↓	↑
教育	2,643	2,170(▲17.9%)	2,039(▲6.1%)	↓	↓
教養娯楽	11,050	9,235(▲16.4%)	9,205(▲0.3%)	↓	↓
その他の消費支出	21,075	21,401(1.5%)	21,500(0.5%)	↑	↑
合計	108,603	100,934(▲7.0%)	106,360(5.4%)	↓	↑

図 1 北陸総世帯の月額消費支出変化 出典:家計調査

※ 橙色は増加、青色は減少の傾向を示す。

図 2 より、産業連関表を用いた経済波及効果分析から、消費の落ち込みによる石川県内への経済的な影響として 2 年合わせて平均▲3,024 億円の経済損失が生じていると推計されます。また世帯による消費のばらつきを考慮した場合、90%の可能性で 2 年合わせて▲4,236 億円から▲1,843 億円の間に経済損失が生じていると推計されます。この経済損失額は石川県内総生産額の 6.9%に相当します。

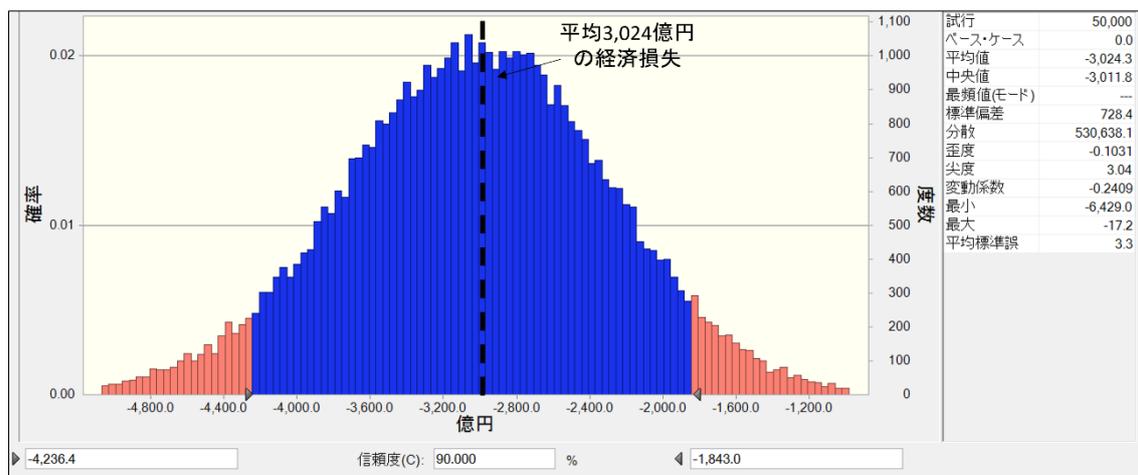


図 2 COVID-19 流行による消費行動変化に伴う石川県内経済損失のシミュレーション分析

図 3 より、COVID-19 流行による産業別の経済損失をみると、対個人サービスや運輸、不動産、対事業所サービス等の第 3 次産業(赤の点線箇所)が特に大きな負の影響を受けています。一方で農林水産業や、金属製品(冷暖房用器具や家事用耐久財)など一部の産業では正の経済効果が生じています。

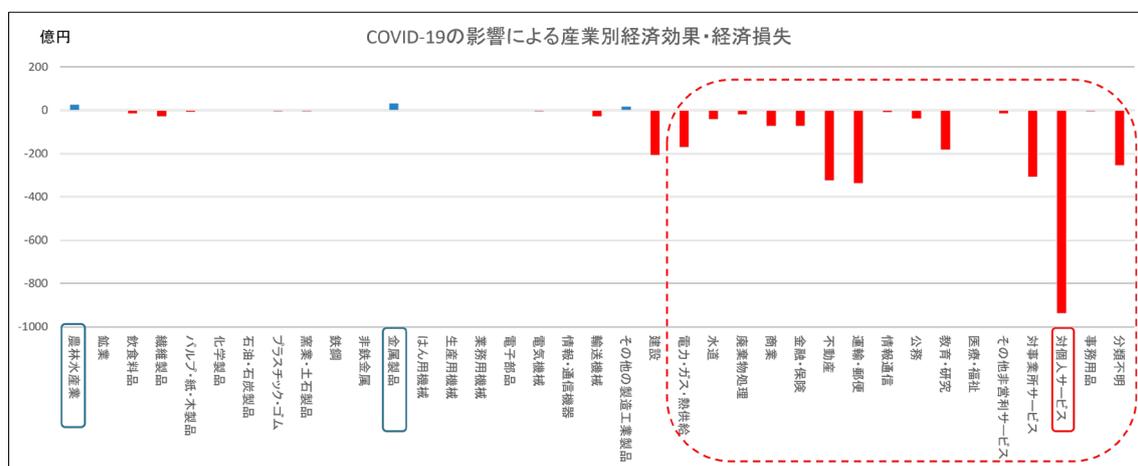


図 3 COVID-19 の影響による産業別経済損失

本研究結果は 2022 年 2 月 20 日に開催された「第 12 回北陸地域政策研究フォーラム」で報告した内容の一部です。

<本件照会先>

○研究内容に関すること

金沢大学人間社会研究域経済学経営学系 教授 寒河江 雅彦 (さがえ まさひこ)

電話 : 076-264-5439 / E-mail : sagae@staff.kanazawa-u.ac.jp

○広報担当

金沢大学人間社会系事務部総務課総務係 山本 由季 (やまもと ゆき)

電話 : 076-264-5598 / E-mail : n-somu@adm.kanazawa-u.ac.jp